

令和4年度 大田区立大森第一小学校

学力向上のための授業改善プラン

大田区教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、授業改善を図ること
で、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、「大田区学習効果測
定」を実施しています。小学校では、4・5・6年生について、国語・社会・
算数・理科・外国語（6年生のみ）の調査を行いました。本校ではこの調査
の結果や、普段の児童の様子をもとに、授業改善プランを作成しました。

□全体計画

調査の結果と結果からの改善策

□4年

□5年

□6年

児童の様子からの改善策

□1年

□2年

□3年

□外国語

□体育

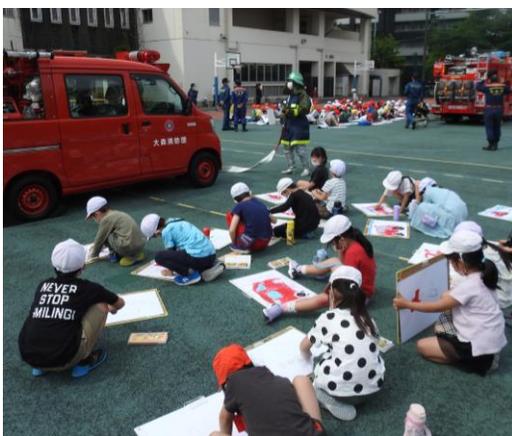
□音楽

□図工

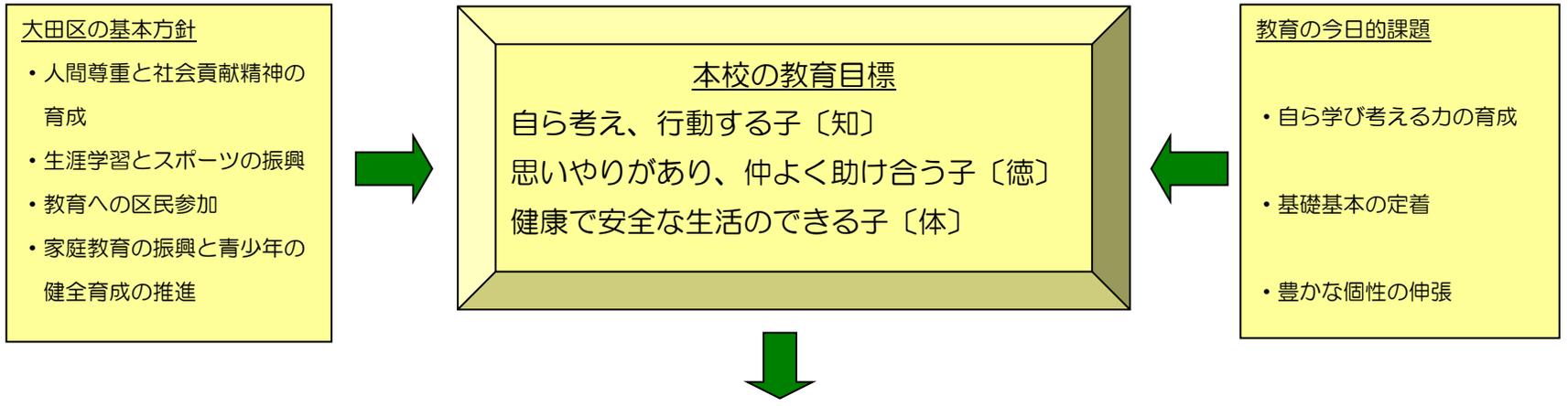
□家庭

□研究

□特別活動



全体計画



学力向上に関わる本校の経営方針

基本方針

- 教育目標の具現化が子どもの姿を通してみること、語ることができる
 1. 限りない可能性を秘めた子どものための学校づくりに努める。
 2. 全教職員の力を結集し、信頼に基づいた学校づくりに努める。
 3. 開かれた学級・学年・学校づくりに努める。

- ① 学習意欲を高める授業の創造
- ② できた喜び（例えば達成感・成就感）などの「自己肯定感」を感じられる授業の創造
- ③ 小さな事柄でも「できた」「わかった」を確かめること
- ④ 友達と交流し、かわり合い、発表する中で、学習することの喜びを感じさせること
- ⑤ 主体的、体験的に学ぶ機会を増やし、学習の喜びを体感させること
- ⑥ 算数科習熟度別指導・ステップ学習・補習教室の推進、家庭学習の習慣化
- ⑦ 学習形態や学習集団の工夫で学習効果を高め、オープンスペースの有効活用を図ること
- ⑧ 「朝学習の時間」（ぐんぐんタイム）による基礎・基本の徹底（発達段階に応じて、系統的・計画的に）
- ⑨ 本校の授業改善推進プランの実施・評価・改善
- ⑩ 学年協働体制による学年全体と個に応じた指導の工夫・充実、指導スタンダードの実践
- ⑪ 授業中の評価活動の工夫、評価規準、通知表等の改善

学力向上に向けての取り組み

- 各教科等の基礎的・基本的内容を重視するとともに、自己肯定感を高め、自ら学び、自分の考えを発表できるような学習指導を進める。
- 話し合いや教え合い等の活動を通して友達と交流し、自分の考えを深めたり広げたりするとともに、友達と学ぶことの楽しさを実感させる。
- 3～6年生の算数において、3学級4展開（5・6年生は2学級3展開）による習熟度別少人数指導を取り入れ、個に応じた指導をする。
- 朝のぐんぐんタイムや放課後の補習教室を活用し、個別の課題に対応した指導を行う。
- 読書の啓発や掲示の工夫を通して、言語環境を整える指導を行う。
- 指導スタンダードを共通理解することを通して、基本的な生活習慣・学習習慣についての指導を統一し、全教職員で一貫した指導を行う。

大田区学習効果測定 調査結果と結果からの改善策

4年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→読書タイムやぐんぐんタイムなどの朝学習の時間や、国語の授業、小テストや再テストを通して、漢字や語句に関する知識技能に関する力が伸びてきました。今後は、考えを書いて表現する力の伸長を図ります。

社会→「考え方」を働かせることができるような学習問題を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図っていきます。

算数→どの観点でも目標値を上回っています。少人数での算数授業など、個別の支援体制の更なる充実を図り、一人一人が分かる授業を目指します。

理科→全体的に、目標値に近い値を示しています。昆虫や植物に関する正答率が低いので、実際に見て触って観察したり、感じたことを伝え合ったりして、実感を伴う授業を目指します。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			▽			≡			≡		
観点別	△	≡	▽	≡	▽	≡	≡	△	△	≡	≡	≡
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									

1 教科全体

国語・算数の正答率は目標値を上回っていますが、社会・理科については目標値を下回りました。

2 観点別

各教科の設定問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。国語と算数では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」等が目標値を上回りました。社会と理科は、3観点とも目標値を下回る結果でした。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・文章から分かったこと、自分の考えや筆者の考えについて書く際には、考えの根拠となる事例や、理由を明らかにして表現できるように、指導していきます。
- ・文章を書く経験を増やしていきます。「指定された長さで書く」、「内容の中心を明確にして、事実を伝える文章を書く」、「内容の中心を明確にして、自分の考えを書く」など、様々な条件で文章が書けるよう指導します。
- また、国語で学んだことを他教科にもつなげられるよう指導していきます。



〔社会〕

- ・身近な資料を提示し、適切に情報を読み取れるように指導していきます。また、物や生活に変化がある際には、どのような理由や原因で変わっていったのかも考えさせながら、指導していきます。
- ・全体的に思考力、判断力、表現力に関する問題で課題が見られます。社会科の「考え方」を働かせることができるような学習問題を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図っていきます。

〔算数〕

- ・「たし算・ひき算」、「円と球・三角形」の内容に関するつまずきが見られました。
- ・線分図や数直線などを使い、わかっている条件や求める答えについて整理することや、図形などを書く際、かきかたを一つ一つ確認しながら、正しく表現できるようにします。

〔理科〕

- ・「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という学習過程を通して、既習事項や生活経験を伴った根拠をもち、考察する力を養うなどして、自力解決する力の育成を目指します。
- ・体験や生活との関連を確認するなど、実感を伴った学習によって理解を深められるようにします。
- ・スモールステップで学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。



5年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→全体的に目標値を下回りました。文章を構成する要素（主語と述語等）の関係や性質を確認しながら文章の内容を正しく捉えられるよう指導しました。考えを書いて表現する力の伸長が課題です。

社会→全体的に目標値を下回りました。身近な資料を提示し、適切に情報を読み取り問題が解決できるようにしました。問題意識をもって主体的に学ぶ力を身に付けることが今後の課題です。

算数→全体的に目標値を上回りました。文章題の問題場面を数直線や図に表したり、立式したりする活動を繰り返し行い、表現力を高めることができるようにしました。「大きい数・分数・小数」、「円と球・三角形」の内容に関するつまずきが多く見られました。

理科→全体的に目標値を下回りました。体験や生活との関連を確認するなど、実感を伴った学習によって理解を深められるようにしました。学んだことを確実に知識として身に付けることが課題です。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国 語			社 会			算 数			理 科		
全体	▼			▼			▼			▼		
観点別	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									

1 教科全体

全教科の全観点において、目標値を下回りました。

2 観点別

「知識・技能」については、特に国語科、社会科、理科、「思考・判断・表現」については、特に社会科、「主体的に学習に取り組む態度」については、特に国語科、社会科、理科が、目標値を大きく下回りました。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・特に、「漢字を読む」、「漢字を書く」、「文章を書く」ことに関する問題の正答率が、目標値を大きく下回りました。
- ・漢字学習のアプリケーションを活用した宿題や、漢字の確認テストの実施を通して、漢字の定着を図ります。
- ・指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書いたりする学習をつめるようにします。

〔社会〕

- ・特に、「年表を読み取る」、「地図を読み取る」ことに関する問題の正答率が、目標値を大きく下回りました。
- ・年表を読み取る学習活動を意図的に取り入れます。年表と、別の資料とを組み合わせ読み取る学習を積んでいきます。
- ・地図を読み取る学習活動を意図的に取り入れます。八方位や都道府県の位置と名称とを組み合わせ読み取る学習を取り入れます。

〔算数〕

- ・特に、「分数」、「億と兆、概数の表し方」、「面積」に関する問題の正答率が、目標値を大きく下回りました。
- ・算数学習のアプリケーションを活用した宿題や、大田区のステップ学習を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- ・数の仕組みや、面積の公式について繰り返し復習し、既習事項を確認しながら学習を進めていきます。

〔理科〕

- ・特に、「電気」、「骨と筋肉」、「空気と水の性質」に関する問題の正答率が、目標値を大きく下回りました。
- ・「電気」について、電磁石の学習の際に、電気の回路についての既習事項の復習をします。
- ・「骨と筋肉」について、生命の学習の際に、腕を曲げたときの筋肉や関節の様子についての既習事項の復習をします。
- ・「空気と水の性質」について、物の溶け方の学習の際に、空気はおし縮められるが、水がおし縮められないことについて復習をします。



6年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

- 国語** → 説明文や物語の読み取りや聞き取りなどはよくできており、目標値を上回りました。しかし、言葉の使い方、言語文化、漢字を読むことに対して課題があるので、今後は、日ごろから漢字を定着する活動を取り入れたり、国語辞典を使って言葉の意味や語彙力を高めたりすることができるようにします。また、段落構成を正しく理解する活動を取り入れ、力が身に付くように努めていきます。
- 社会** → すべての観点で目標値を下回りました。特に「資料に着目して、様々な特色や背景を記述で表現する」という問題で目標値を下回っていました。産業の実態やグラフや表の読み取り方をしっかりと理解することが課題です。児童の興味・関心をより喚起するため、ICT機器を用いて画像や動画を活用したり、資料を配ってノートに貼らせたりするなどして、児童の興味・関心をより高めるとともに、自分の考えをしっかりともてるような授業づくりに取り組んでいきます。
- 算数** → 全体的に目標値を下回りました。ただ、「知識・技能」では、目標値にかなり近い値が見られるため、今後は、自力解決の場面で、既習事項の活用や図や表などを用いて表現する力を高め、知識技能を習得したのち、それらを用いて考える数学的な思考の育成を図ります。
- 理科** → 全ての観点で目標値と同程度となりました。ただ、実験・観察を伴う「知識・技能」では、低い値が見られるため、「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という過程を通して実験活動を丁寧に行い、使用した実験器具や、実験方法などを明確にし、基礎的な知識・理解の定着を図ります。
- 外国語** → 全ての観点で目標値と同程度及び上回る結果となりました。単語の意味理解、アルファベットの読み、英文の完成で高井里香らを発揮しています。会話全体の聞き取りに課題があるので、リスニングの定着に取り組んでいきます。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科			外国語		
全体	△			▽			▽			≒			△		
観点別	≒	△	△	▽	▽	▽	≒	▽	▽	≒	≒	△	△	≒	≒
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度												

1 教科全体

国語と理科で成長が見られます。算数は、目標値を少しだけ下回り、観点によって課題があります。社会が昨年度に続き目標値に至らない項目が多くありました。総合的に見て、社会・算数の手立てを講じる必要があります。成果と課題に記載した内容をもとに、少しでも数値を上げられるよう、指導していきます。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。国語、算数、理科、外国語の「知識・技能」では、平均となる目標値に達しています。しかし、算数と社会の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」では、目標値を下回る傾向が見られ、今後の重点課題として、指導の改善に取り組んでいく必要があると考えます。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- 文章を要約する力に少し課題が見られるので、説明文の文章全体の構成を捉えるために、段落ごとの内容の要点のポイントをおさえて、読み取る力の定着と理解を確実に図ります。
- 既習した新出漢字や熟語などを、日常のノートや作文で積極的に活用することを通して、確かな知識として定着するようにしていきます。

〔社会〕

- デジタル教科書の動画を効果的に活用したり、教科書の写真をノートに貼れるように配布して解説を加えたりすることで、自分なりに工夫したノート作りをできるようにし、より関心・意欲をもって学習に取り組めるようにする。
- 教科書や地図帳、資料集及びタブレットを意図的・計画的に活用して必要な情報を集め、問題解決的な学習方法と用いて、その社会的事象の背景を考えて分析したり、自分なりの表現でまとめたりできるようにします。

〔算数〕

- 必要な公式・数直線・計算のきまりなどをその都度確認し、繰り返し復習して定着できるようにしたり、児童にとって身近な問題になるようにするなど工夫したりし、児童がより興味・関心をもって課題に取り組めるようにします。
- 一人一人に応じた習熟度別指導を大いに活用し、児童にあった学習の進度や課題を意識して、基礎・基本となる学力の定着をさせます。

〔理科〕

- 実物や実際の映像、十分な実験道具や実験・観察環境などを準備し、児童一人一人が実験・観察の「必要性」「有用性」を感じ、自分の学習という実感をもって学習に参加できるようにしていきます。
- 「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→新たな問題」という学習過程を通して、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。

〔外国語〕

- ALTの存在を大いに活用し、ネイティブな発音に触れることで、日本語と外国語との違いなどを聞き取ったり、似ているところに気付いたりできるようにし、外国語の学習に対する興味関心をもたせるようにしていきます。
- 習った英単語や文章を、歌やゲームを通して楽しく身に付けていけることを目指します。

児童の様子からの改善策平仮名の学習では、文字を書く姿勢やえんぴつの持ち方に気を付けながら文字の形に注意して書くことを学習しました。

1年生

1学期の成果と課題

一斉指導のもと、課題を理解して学習する力、自分で考える力が身に付いてきました。45分間の授業時間にも慣れ、集中して学習に取り組める児童が多いです。挙手をして自分の考えを発表したり友達の考えに耳を傾けながら学んだりする姿が増え、授業に活気があります。生活科で活動したことを3文程度で書くことは、ほぼ全員ができるようになりました。苦手意識や表記の誤りがある児童がおり、個別指導が必要です。10までの数の合成分解を具体物の操作なしで思考できるよう、繰り返しの学習を取り入れていきます。

国語

学年の実態

物語を読むことや話をすることを楽しみ、意欲的に学習しています。音読の宿題に毎日取り組むことで、言葉のまとまりを捉え、声の大きさや速さに気を付けて読めるようになってきました。平仮名を正しく読み書きできる児童がほとんどですが、書き順・拗音・促音などを含む語や助詞「は・へ・を」を表記することにつまずきのある児童がいます。

改善策

仮名遣い、拗音・促音の課題については、朝のぐんぐんタイムや宿題で継続して指導を続け、正しく読み書きができるようにしていきます。読書に親しみながら、物語文や説明文の内容について話し合ったり、場面と場面のつながりを考えたりして、正確に読む力を身に付けていきます。



発表にも意欲的です。友達の話を最後まで聞き、考えを繋いでいくことを大切にしています。

算数

学年の実態

1～10までの数を正確に数え、繰り上がりのない足し算・繰り下がりのない引き算を正確に計算できる児童がほとんどです。算数ブロックや指を使ったり、丸を書いたりして答えを確かめたりする児童もいます。求差・求補の計算では、文章から場面を具体的にイメージして立式することに個人差があり、正答を導き出すことに課題がある児童もいます。

改善策

タブレットドリル、計算スキル、計算カードの活用と宿題で、繰り返し計算練習を行い、正確さ、速さを身に付けさせていきます。具体物や半具体物を操作したり、図絵などを見て説明したり、視覚・聴覚・操作など様々な方法でアプローチを行います。身近なことを題材にした問題作りをすることで体験的な活動を重視して学習を進め、計算の意味を考えるようにしています。



体験活動を多く取り入れ、発見や驚きから、学習を創造していく経験を積ませています。

生活

学年の実態

「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」の活動を楽しむことができている。自分の思いや願いをもって、活動に取り組む児童がほとんどです。一人一鉢育てているアサガオの生長に伴う変化を楽しみ、親しみをもって世話をしました。学校探検では、教室の数の多さに驚き、一部屋一部屋異なる教室に興味津々でした。見付けたことやワクワクしたことを絵と言葉で表しました。発展的な活動として、自分の発見を紹介しました。学級、学年、異学年交流を実施し、校内の人との交流を深めると共に、先生や上級生への関心を強くもちました。身近な人々とのさらなる関わりに期待をしています。

改善策

活動したことや体験したことを絵や言葉(文章)で振り返らせ、気づきを明確にしていきます。個々の気づきを全体で共有し、教師が価値付けすることで、さらに意欲を引き出し、活動を深めたり広げたりしていきます。



2年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った文字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い計算することができる児童が多くいます。異学年での交流やアサガオの栽培など直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

基礎・基本が十分でない児童や人と積極的に関わることや生き物に苦手意識をもっている児童もいるため、昨年度取り組みを継続します。基礎・基本を生かして、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりする学習の積み重ねをして、思考力や表現力についても伸ばしていきます。

国語

学年の実態

音読は多くの児童が、はっきりと大きな声で読むことができます。登場人物の心情の変化に関しては、経験的に感じとることはできていますが、叙述を根拠にした理由を説明することは、十分ではない児童がいます。文章を書くときに、文章の構成を考えて正しく書くことに課題のある児童が多いです。文字を書くことについては、日記や説明文を書く活動を通して、習得した漢字やカタカナを文章の中で使えるよう習熟を目指します。

改善策

物語の読解に関しては、場面の様子や登場人物の心情の変化について、叙述を根拠にして考え、タブレットを活用して互いに交流、捉え方の違いを認めつつ深めていきます。説明文の読解では、文章の構成（始め・中・終わり）を意識して、書かれていることを正しく読み取る力を養うとともに、自分の作文にも生かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



「あったらいいなこんなもの」の学習では、あったら良いと思うものを考え、順序立てて、説明することができました。

算数

学年の実態

基本的なたし算・ひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。数を位ごとのまとまりとして算数的にとらえることや、長さや水のかさなどの単位については、難しく感じる児童がいます。日常の現象を算数で学んだことと結び付けて捉える経験は少なく、文章だけでは状況を正しく想像できない児童がいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的に行い、児童の生活と算数で学んだことをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。計測に関して、経験が不足していることから、生活科「野菜の観察」と関連させて長さの単位を使って記録したり、給食で飲んでいる牛乳パックの量を確認したり、他教科・領域で算数の技能として用い、確実な習得を図っていきます。



生活科の「野菜の観察」では、定規を使って実際に長さを測り、記録しました。

生活

学年の実態

人と関わることや自然に積極的に関わる児童も多くいる一方、苦手な児童もいます。トマトやキュウリなどの野菜の栽培、トウモロコシの皮むき体験などを通じて、自然体験をさせ、興味・関心を示す児童は増えてきています。

今年度は、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただいたり、3年生にアドバイスをもらったり、交流をもちました。

改善策

町探検などの活動について、1年生などに伝えることや一緒に活動することを通して、人との関わりを深めていきます。これまでの経験を振り返り、自分の成長を自覚し、学びに向かう力を涵養することをねらいとします。



ミニトマト・ナス・オクラ・ピーマンから、自分が育てたい野菜を選びました。茎や葉、花、実などに着目しながら、世話をしました。

3年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った文字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い、計算することができる子が多くいます。友達との交流や、生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

身に付いた基礎・基本を生かし、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりすることを通じて、思考力や表現力を伸ばしていきます。

国語

学年の実態

文章には親しみを持ち、考えをもつことやそれを発表することは積極的にできています。しかし、その考えを支える理由や事例を説明することについては難しい様子です。また漢字の学習では、字形に気を付け丁寧に書いていますが、漢字を日常で進んで使用することについては課題があります。

改善策

物語文や説明文を読む際には、中心となる語や文を見付け、叙述を基に自分の考えを説明できるようにします。さらに、友達と交流の機会を設け、相手に伝わるように考え表現しようとする中で、より根拠が明確になるようにします。また、文章を書く場面では、既習の漢字を使うことに意識をさせ、使う習慣が身に着いていくよう進めていきます。

社会

学年の実態

区の様子や、私たちの暮らしに関わる仕事に関する社会的事象を比較・分類したり、関連付けたりすることは意欲的に取り組んでいます。地図帳や写真・資料の閲覧やそれらを手掛かりにした調べ学習は、楽しんで行っていますが、正しい読み取りの仕方や活用方法には課題があります。

改善策

社会的事象の「見方」について指導し、地図帳や各種の具体定期資料を通して、必要な情報を調べる技能が身に付くようにします。また、見学や観察、聞き取りなどの調査活動を行い、思考力判断力を高め、新聞等で表現させていきます。学習したことを自らまとめ、生活に生かしていこうとする態度の育成も目指します。



社会科見学では、教科書で学んだことを生かし、様々な施設を見学したり、施設の人に質問したりしました。

算数

学年の実態

計算の方法については身に付けることができている児童が多くいます。時刻と時間の求め方や計算処理については、難しさを感じている児童や問題文から正しく立式をすることに課題が見られます。

改善策

日常生活の中で時刻や時間を意識できるように声掛けをしていきます。また、問題文において何に着目するのかを考える活動を通して、正しく式をつくれるようにしていきます。



これまでの経験などをもとに、予想、計画、実験を行いました。実験方法や結果からどんなことが言えるのかなど、グループで話し合いながら、学習を進めています。

理科

学年の実態

生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。結果から何が考えられるか、何が言えるのかといった考察する力を伸ばすことが今後の課題です。

改善策

生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験の機会を充実させ、主体的に学ぶ力を伸ばします。実験や体験から得られた結果を基に、どのようなことが分かるかを話し合い、考察をまとめていきます。

昨年度改善プラン成果と課題

外国語が教科となり、児童の外国語にふれる機会が多くなったことで、外国語に対する興味関心が高まっている姿が見られる。一方で、新たな言語で自分の考えや感情を表現することに対して、苦手意識をもっている児童も見られる。

学習テストの結果では、目標値よりも知識・理解面での点数が高く、知識の定着が見られる。思考・判断の点数については目標値にとどかなかった。全体の意味を理解し、そのことに基づいて考える力を身に付けていくことが課題になっている。

	児童の様子	改善のポイント
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 授業に進んで取り組んでいる児童や挙手して発言する児童が多く見られる。 新しい言語に対して積極的に声に出して発音する姿が見られる。 外国語での交流の際にうまく伝えられず、日本語で話してしまう児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> より児童の主体性を高め、積極的に授業に取り組む児童を増やすための手立てが必要になる。 自発的に発音をする場面や声に出して相手との交流してみたいと感じるための学習場面の設定や活動を考えることが必要。 学習した単語や表現の定着を図るために、繰り返し使うような活動の工夫をする。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティの中で新たに学んだ表現を使い、進んで友達とのコミュニケーションをとる姿が見られる。 学んだ単語を基に話を聞きながらどのような内容なのかを想像しながら聞くことができている。 生活経験の中で外国語を使う機会が少なく、学習経験に差が見られる。 覚える内容が増えたことにより、苦手意識をもっている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティなどをより取り入れ、外国語を話す機会を多く取り入れ、話すことへの意欲を高める。 普段の生活の中でも外国語が多く使われていることを意識できるようにし、日常生活の中でも使える単語や文があることに気付けるようにする。 1時間の中で何を学習すればよいのかについて見通しをもって取り組めるような授業にする。

	具体的な改善策
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ALTの発音から、正しい発音の仕方を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにする。 学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して、楽しみながら身に付けることができるようにする。 短い物語や簡単な対話の場面を用いて、話の概要を捉えられるようにする。 繰り返し発音することを通して、外国語を使うことに対して慣れるようにする。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ALTの発音から、正しい発音の仕方を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにする。 生活の中で関わるものや言葉について授業の中で取り扱い、外国語が多く使われていることを知り、生活の中でも使う意識をもてるように支援する。 目的や場面設定を工夫し、児童自らが伝えたいという思いを引き出し、主体的に取り組めるように支援する。 中学校での学習との連携をはかり、学習内容やアクティビティを共有するなどしながら、授業に取り入れ、進学後も積極的に外国語でのコミュニケーションをとれるよう支援する。



体 育

昨年度改善プラン成果と課題

全 体

体力づくりに必要な運動の機会を多く設定したことで、朝の時間の体育朝会や休み時間など、学校生活全体を通して体力向上につながる遊びや運動に親しむことができるようになりました。

低学年

ルールのある遊びを多く取り入れたことで、きまりを守り、友達と楽しく運動することができるようになりました。

中学年

自分なりに運動を楽しく行える工夫を考えながら授業に臨んだことで、運動に親しむこと場面が増え、全体の運動技能が向上しました。

高学年

自己の課題を理解したことで、運動に対する意識や取り組む姿勢が向上しました。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して取り組むことができます。 運動に対して進んで取り組む児童が多数います。 運動のイメージがなかなかもてず、体の動かし方が分からない児童がいます。 身体を動かすことに苦手意識をもっている児童が多数います。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動を授業の中で、基本的な体の動きを養います。 目指す動きを明確化し、段階を踏んで動きを体得できるようにしていきます。 ゲーム（遊び）を取り入れ、ルールを守ること、協力するよさを実感できるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きのよさに気付き、協力して取り組むことができます。 運動技能の差が大きいので、個に応じた指導の充実を図る必要があります。 体力の低下に伴い、運動に対して苦手意識をもつ児童が増えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の「めあて」を提示し、身に付けさせたい運動の特性をつかませます。 作戦を立てるなど、チームで協力する時間を設けます。 場を工夫し、個人のめあてに沿った練習ができる指導の工夫をしていきます。 技能や勝敗よりも、運動のもつ楽しさを実感できるような声掛けを行う。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために協力して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることができます。 柔軟性・動きを持続する力が身に付いていない児童が多いです。 体力の低下に伴い、運動に対して苦手意識をもつ児童が増えています。 自分の運動の力を見極め、課題を設定する力が身に付いていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を定期的に授業に組み込みます。 体力を高める運動を授業に組み込みます。1年間を通して取り組ませます。 映像や具体的な例を示し、視覚で認識させます。また、反復して動きを覚えさせます。 学習カードを使い、毎回の授業の課題設定をさせます。 技能や勝敗よりも、運動のもつ楽しさを実感できるような声掛けを行う。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた様々な動きを取り入れた体ほぐしの運動を月ごとに工夫します。 <ul style="list-style-type: none"> 体育の学習の時間の基本的な流れを、「めあての確認→全体練習→手本の運動を見る（児童）→ペア・トリオ学習→一人一人の力に応じた練習→振り返り」として、低学年のうちに取り組むべき運動遊びの習得を目指します。 友達の動きを見て学ぶ時間を生かしながら、励まし合い、みんなで上達していく意識を育て、協力する力を高めます。 児童が運動遊びに取り組むことができる機会を多く設定し、いろいろな動きを体験できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 「ランニングカード」「短なわカード」など児童が1年を通して運動に興味・関心を高められるような活動を増やします。 学習カードを充実させ、運動のねらいを理解して授業に取り組むことができるようにします。 グループ活動・教え合いを通し、友達と仲良く協力して活動しようという態度を育てます。 運動の楽しさを実感できるように、ゲームを多く取り入れたり、友達と共に体を動かすよさに気付かせたりと、様々な楽しさに触れられる機会を設定するようにします。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、自分の力を知り、自分の課題を設定し、解決するための力を養います。 <ol style="list-style-type: none"> ①授業の振り返りを毎回の授業で行うことで、自分の学習状況や次の課題を把握させます。 ②課題を解決するために、練習の場を自分で選んだり、工夫することを決めたりして思考力を養います。 朝の時間や休み時間に、向上心を持ち、児童自身が工夫して取り組んでいけるような運動の場を設置し、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力向上に励む児童を育てます。 運動の楽しさを実感できるように、ゲームを多く取り入れたり、友達と共に体を動かすよさに気付かせたりと、様々な楽しさに触れられる機会を設定するようにします。 	

昨年度改善プラン成果と課題

低学年：音楽活動に興味・感心が高い児童が多く、歌唱やリズム打ちに意欲的に取り組む姿勢が見られました。

中学年：歌唱やドラムサークルの活動に意欲的に取り組みました。鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏の他、いろいろなリズムをつくったり演奏したりする活動を通して、主体性を育むことができました。課題は、一人一人が思いや意図をもって演奏表現を工夫することです。

高学年：合唱や器楽合奏に積極的に取り組み、学校行事や音楽朝会等で、きれいな音色を響かせて自信をもって演奏することができました。課題は、友達と協働して音楽活動を行う中で、互いのよさを取り入れて豊かな演奏表現につなげることです。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌や楽器に興味をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多く見られます。 拍の流れにのって歌ったり演奏したりする活動を通して、友達と合わせる力や、互いの歌声・楽器の音色を聴こうとする力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間配分を工夫し、児童が楽しく授業に取り組めるようにします。 自然でかみのない声と正しい音程で歌えるよう繰り返し指導し、鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングをしっかり身に付けるよう一人一人の個別指導にあたります。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 明るく元気な声で、のびのびと歌うことができます。 3年生は、打楽器や鍵盤楽器の他、リコーダーの演奏に、意欲的に取り組んでいます。 4年生は、友達と互いのリズムを聴きながら、拍にのってリズムアンサンブルを演奏することができます。 階名唱したり、リズムを手拍子したりして楽曲の特徴をつかみ、進んで歌や器楽演奏に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴く活動を重視し、鑑賞したり、互いの演奏を聴き合ったりする機会を増やします。 歌ったり楽器を演奏したりする活動の中で、音の高さやリズム等について、実感して理解できるよう指導します。 自然で無理のない、響く声で、いろいろな歌を楽しく歌えるよう発声指導します。 小さなつまずきを見逃さず、必要に応じて、休み時間等に個別指導を行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 力強く元気な声や、柔らかな響きのある声で生き生きと歌うことができます。 スタカートやアクセント等の演奏表現を工夫してリコーダーを吹くことができます。 器楽合奏に関心が高く、友達同士教え合ったり励まし合ったりしながら、練習に取り組んでいます。 曲想を感じ取り、友達と一緒に表現の工夫をしながら、演奏に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 和音の構成音を重ねて歌ったり、ハーモニーのよさを感じながら歌ったり演奏したりできるよう、指導します。 歌唱や器楽におけるつまずきを把握し、発達段階や個に応じた指導を行います。 主体的、協働的に演奏に取り組む、友達と互いに高め合うことができるよう教材や教具を工夫し、ICTを活用して指導を行います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を取り入れ、リズムや拍感を身に付け、楽しみながら歌ったり演奏したりできるように指導します。 授業の中で様々な学習形態（ペア・グループ活動等）を設定します。 タブレットを活用して、リズムや旋律を作る活動を取り入れ、楽しみながら音楽づくりをする態度を身に付けます。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、児童が進んで取り組むことができるよう、平易な作品を多く扱います。運指や音色について、細かく机間指導します。 楽しく練習を行い、友達と演奏を聴き合う機会を増やします。 楽器に親しみながら、色々なリズムを即興的につくったり、拍にのって合奏したりして、音楽性や主体性を育みます。 音の高さやリズムを感じて歌ったり演奏したりする活動を通して音符や音楽記号に親しみ、演奏表現に生かしていこうとする態度を身に付けます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、腹式呼吸を用いて発声指導を行っていきます。高学年になると児童によっては高音が出しにくくなるので、頭声発声の他に胸声発声も取り入れ、オクターヴ下を歌う等、発達段階や個に応じた無理のない指導を行います。 日々の学習の中で、わらべ歌や外国の民謡を題材に、ハーモニーの美しさや、強弱表現のよさや面白さを味わわせながら指導します。 器楽合奏では、楽器パート毎の役割や楽器の奏法について学び、友達と協働して表現の工夫を行う中で豊かな演奏へつなげます。 合唱や器楽の演奏活動を通して読譜力や表現力を育み、友達と協働する喜びを味わわせ、生涯にわたる音楽文化に親しむ態度を養います。 	

図画工作

昨年度改善プラン成果と課題

低学年：日常的にはさみ、のり、絵の具セットなどの基本的な用具の使い方を指導し、造形活動への意欲・関心を高め、楽しみながら活動することができました。意欲を維持しながら、引き続き指導していきます。

中学年：材料、用具を選択できるように指導を工夫したことで、自分で取捨選択し、思考しながら造形活動に取り組めるようになりました。自他の良さに気付ける鑑賞活動をしたことで、作品のよさや面白さを見付けることができました。自分の表現に自信がもてない児童や児童もいるので、根気強く活動し続けることができない児童がいるため手立てが必要です。

高学年：今まで学んできたことをさらに深められるように表現方法や材料などに幅をもたせたことで、つくったり描いたりする喜びを感じ取ることができました。さらに自ら考え、判断しながら活動を進めることができるようにしていきます。

	児童の様子	改善のポイント
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲をもって楽しみながら活動しています。 ・題材に応じて、想像力豊かに造形表現することができます。 ・自分や友達の作品から面白さやよさを楽しんでいます。 ・早く完成させてしまい、それ以上作品の工夫や改善をすることが出来ない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や季節に合わせた題材を設定し、児童の意欲をさらにもたせます。 ・児童がイメージをふくらませやすいように、多様な資料や材料を用意します。 ・より自分の作品に対して愛着がもてるような導入の仕方や友達の工夫を見せながらより満足感のもてる作品ができるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲が高く、つくることや表すことを楽しんでいきます。 ・友達の作品に関心をもって、自他の違いや発想の良さや面白さに気付きながら、鑑賞しています。 ・自分の表現に自信がもてず、描くことやつくることをあきらめてしまう児童がいます。 ・根気よく継続してつくり続けたり、描いたりすることができず、飽きてしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形への意欲を高められるように学習の導入を工夫します。 ・ワークシートを用いながら、作品を見たり、話し合ったりして多様な発想や表現、自他の良さに気付け、言葉で表現できる活動をします。 ・友達との鑑賞活動や身近な造形作品の鑑賞を通して様々な表現を知り、自分の表現活動に自信がもてるようにします。 ・毎時間ごとに課題を決めて、達成できるまで集中できるようにします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心をもち、作品が完成するまで根気よく取り組むことができます。 ・客観的に自分の作品を見つめたり、作品の良さや違いを感じ取ったりしています。 ・その都度教師に聞いてしまい、自ら考え、判断することが出来ない児童がいます。 ・周りの人と同じ表現になってしまったり、既存のキャラクターに頼ってしまったりする児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするために、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにします。 ・ワークシート等を用いながら、鑑賞活動を行い、自分の考えをもたせるようにします。 ・手順を説明し、自分一人の力でできるようにします。 ・友達と相互鑑賞することで自分の表現に自信をもたせるようにしたり、身近な作品を鑑賞して様々な表現方法に気付かせたりします。

	具体的な改善策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・紙、粘土、はさみ、のりなど基本の材料や用具を、年間を通じて楽しく、正しく、安全に使用できるように計画を作成します。 ・活動の参考になるような写真や資料などを豊富に用意し、意欲を高めます。 ・友達の作品のよいところを見付け、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の時間を設定します。 ・児童にとって親しみのある名前を付けたり、身近な材料を扱ったりして、かくことやつくることの楽しさを味わわせながら、造形活動への満足感を高め、粘り強く作品をつくるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、年間計画を立て、導入では、児童が楽しいと感じたり、面白いと思えたりするような工夫をして、造形活動に意欲がもてるようにします。 ・ワークシートを用いて、友達の作品から、よさや面白さを造形的な視点をもって、鑑賞できるようにし、自分の言葉で伝えたり、発表したりできるようにします。 ・友達の作品を見る機会を増やしたり、身近な造形作品を鑑賞したりすることで、多様な表現に気付かせ、自分の表し方に自信がもてるようにします。 ・毎時間ねらいを設定して、手順を板書し、可視化できるようにします。次に何をすればいいのか自分で分かるようにします。またこまめに声をかけながら進み具合を確認します。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験した材料や用具を再度扱うことで、材料の工夫や用具の取り扱い方に慣れ、つくりたいことに合わせて、取捨選択できるようにします。 ・見る視点を書いたワークシートを記入させ、自他の違いや工夫を見付け、尊重することで、鑑賞の能力を育みます。 ・手順を板書したり、説明したりしながら、自ら考えて活動を進めることができるようにし、つまづいているときには児童とともに最善策を考えながら、自らの力で完成させることができるようにします。 ・友達との鑑賞活動をしながらか自分の作品に対して自信がもてるようにします。身近な作品の鑑賞活動を取り入れながら自分の表現に広がりをもたせることができるようにします。 	



昨年度改善プラン成果と課題

児童が、家庭科で学んだことを自分の「仕事」として家庭の中で生かして、継続して実践できるようになってきました。さらに、家族の中の自分の存在や役割について意識を高め、自ら役立とうと行動する児童が増えました。家庭の協力を得ながら、児童一人ひとりが家庭実践を繰り返した成果があらわれてきました。

裁縫学習では、細かな作業や応用的な技能の習得状況に課題があります。

	児童の様子	改善のポイント
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味を持ち、意欲的に学習や実習に取り組む児童が多くいます。 家庭での調理経験がある児童は比較的多いですが、裁縫の経験がある児童は少なく、家庭科で初めて針を持つという児童が半数以上います。 家庭にIH調理機が広く普及してきており、ガスコンロを使えない児童が増加傾向にあります。「調理の基礎」については実施時期や方法を工夫していきます。 話し合い活動の際、自分の考えをすすんで発表できる児童が増えつつあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習させることで技能を着実に身に付けさせ、全員が自信をもって実習に取り組めるようにします。基礎的・基本的知識及び技術の定着を図り家庭や地域での実践に活かせるようにします。 用具の正しい名前と安全な使い方を繰り返し指導します。必要に応じて動画や画像を用いて、児童の理解を促します。実物投影機も活用し、実習の手順や手元の動きが全員に見えるようにします。 全員にガスコンロの正しい使い方を確実に身に付けさせ、換気等を含めた火気を取り扱う際の注意点も指導します。 相手意識をもった言語活動を充実させていきます。また、これまでの経験や情報で予想できることはないかを考えさせていきます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計画を大切にし、自分なりの工夫を加えて実習に臨む児童が増えてきました。自分の工夫を加え取り組んでいます。 自分の考えを発言する際、これまでの学習や家庭での経験を踏まえて説明できる児童が増えました。 家庭科で学んだことを生かして、毎日や週1回など、定期的な自分の「仕事」として取り組む児童が増えました。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって計画的に取り組むことを重視して指導します。内容によって様々な活動を行います。 児童の学習や生活経験を大切にし、様々な学びを結び付けながら、要点や理由を明確にして説明する表現力を育てます。 今後も家庭と連携しながら、児童の家族の一員としての役割意識を高め、仕事として家事に取り組む力を育てます。

	具体的な改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> 安全で衛生的な調理の仕方を指導します。実習前の調理計画の立て方を段階的に指導し、食材や調理法に合った手順や用具を考えられるようにします。家庭実践においては家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感し実践意欲が高まるようにします。 裁縫実習は、製作過程が段階的に理解できる教材・教具を取り入れます。また、家庭で長く活用できる作品を製作し、児童が作品に愛着をもって、完成に向けて意欲と技術を高めようとする学習にします。 消費・環境の学習「生活を支えるお金と物」や、持ち物の片付けの学習「整理・整とんで快適に」を通して、児童が環境や物や金銭について見つめ直す学習をします。特に、自分の持ち物への所有感や愛着、家族への感謝の気持ちを高めます。 一度学習した裁縫の技能を、違う単元や題材などで繰り返し学べるよう、2学年間を見通した学習支援をします。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年生になり初めての学習は「わたしの生活時間」です。まず、それぞれの生活時間を書き出し表にまとめることで、見直しをします。次に家族とのふれ合いを増やす工夫の一つとして、家での朝食づくりへの実践へと進めていきます。 生活環境を考える学習として手洗いで洗濯実習や、掃除の実習に取り組ませて、日常生活にも活用できる知識を身に付けさせていきます。 裁縫実習では、雑巾・エプロン・きんちゃくづくりを通して、様々な素材や道具を使いこなす学習に取り組ませます。 中学校との内容のつながりを意識します。継続して学習するもの（例えば、調理用具の扱い方やミシンの扱い方）は、小学校段階で確実に習得するものを明示し、意図的に練習ができる教材を選定します。



研究

昨年度改善プラン成果と課題

平成30年度から令和2年度まで、東京都教育委員会及び大田区教育委員会の教育研究推進校として、ESDについて研究をし、研究発表を行いました。総合的な学習の時間と生活科を中心に、地域を教材にすることや、児童が自分ごととして学ぶことなどを重視し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことができました。今後は、教科教育の中で、児童の問題解決能力を育成することが課題です。



模擬授業形式の事前検討会の様子です。

研究主題

問題解決的な学習の充実を図る指導の工夫
～理科、生活科の考察場面の指導を通して～

研究主題設定の理由

研究対象とする教科について

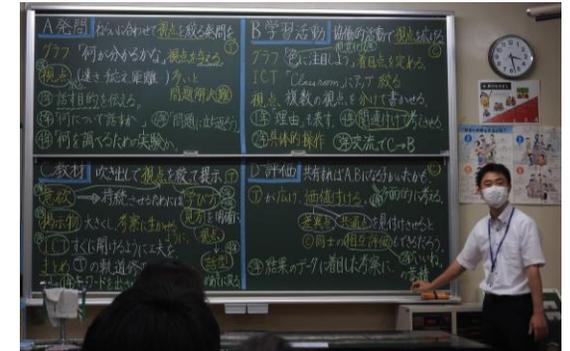
教科教育の中で、児童の問題解決能力を育てる必要性を共有しました。そこで、昨年度から引き続き、理科及び生活科の指導に焦点化し、教科教育の中で資質・能力を育成するための指導の手だてを見いだすことを目指します。

研究対象とする学習過程について

児童の問題解決能力の育成のための指導方法について、より具体的で、日常の授業改善に生かせる成果を出したいと考えました。そこで、問題解決の学習過程のうち、考察場面に絞って指導方法を研究することとしました。



シグソー学習の手法を用いた協議の様子です。

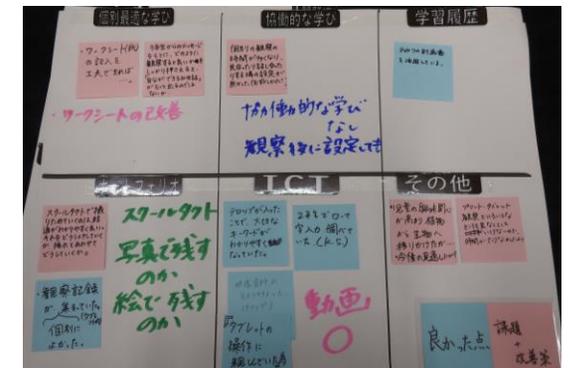


4つの視点から授業を分析している様子です。

研究の方法

事前模擬授業を行い、児童の思考の流れを体験的に理解し、授業改善に生かします。研究授業及び協議会では、「発問」、「学習活動」、「教材」、「評価」の4つの視点から授業を検討、分析し、日常の授業改善に生かせる成果の獲得を目指します。今年度は、新たに、シグソー学習の手法を用いた協議を行うことで、協議の質の更なる向上を図ります。

「校内研究だより」を発行し、本校の研究の取組について発信します。各学年の研究授業を中心に、年6回の発行を予定しています。



研究授業の様子です。「見取りシート」を開発し、児童一人一人の学びの姿を見取りながら授業参観をしています。教員の児童理解の力の向上を目指しています。



本校の研究では、授業者だけでなく、参観者の教員が、主体的に学び、自分自身の日常の授業改善に生かすことを目指しています。参観者の教員が、児童に寄り添い、児童の学びを見取ることを続けていきます。

特別活動

たてわり班活動（異学年交流）を通して

たてわり班活動では、それぞれの学年がめあてをもって活動に参加することで、自分の役割を自覚し、意欲をもって活動に取り組めるようにしています。上学年は、下学年に対して優しく接したり、一緒に行く遊びを計画したりする中で、上学年としての自覚や、学校をよりよくしようという意識が芽生えます。自分たちの計画で下学年たちが楽しそうにしたり、下学年から感謝の気持ちを伝えられたりすることで、さらにその意欲を強め、自己肯定感を高めています。下学年は、そのような上学年たちの姿に憧れをもち「いつかは、先輩たちのように学校を引っ張っていきたい」と、意欲を高めています。また、自分たちにできることを一生懸命考え、取り組むようになり、自己肯定感を高めることにつながっていくと考えています。

なかよしタイム

なかよしタイムは、兄弟学年で休み時間に遊べるよう、6年生が下学年と遊びの内容を相談しながら、活動内容を計画しています。

定期的に兄弟学年が集合して関わることで、より早くお互いの顔を覚えることができます。それにより、普段から上学年や下学年を意識するようになり、なかよしタイム以外でも、お互いに声をかけあったり、遊んだりしている様子が見られます。



昼のたてわり班活動（今年度は2学期から実施予定です。）

今年度は、たてわり班ごとに清掃活動を行う予定です。兄弟学年（1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生）ごとに仕事を分担し、活動を行います。

上学年が下学年の手本となるように掃除の仕方を教えたり、やり方を見せたりすることで、上学年としての自覚を育てたり、自己肯定感を高めたりできると考えています。下学年は、上学年と関わる中で「こんな高学年になりたい」というイメージをもち、自分の成長につなげていくことができます。



委員会活動

各委員会が、大森第一小学校をより良い学校にするために、日々の活動を振り返って話し合ったり、できることに取り組んだりしています。

昨年度から委員会活動は、前期と後期で所属する委員会を変えるのではなく、1年間を通して同じ委員会に所属するように変更しました。そのことにより、1年間を見通した内容を考えることができ、様々な活動を進められるようになっています。

毎日交代で行う常時活動だけでなく、季節や行事に合わせて、ポスターや朝会で呼びかけるような特別な活動等も行っています。



クラブ活動

自分たちの好きなことを、同じことが好きな友達同士で集まり、行うことで、その活動に対する自信をもつことができます。6年生は、4,5年生が楽しく、意欲的に活動できるように、日々活動計画を立てて、積極的に取り組んでいます。4,5年生は6年生の手本となる姿を見て、できることから始めようとするなど、他学年で交流し合う姿が多く見られています。



学級活動

学級の友達と話し合ったり、話し合っただけを実践したりすることを通して、自治的・主体的な態度を育てています。



たてわり班集会（令和3年度）

昨年度は、ふるさとまほ公園でたてわり班集会を行いました。たてわり班ごとに、6年生が計画した遊びを行ったり、砂で作品を作ったりと様々な活動を行いました。

今年度は、大一発表ウィークを行います。それぞれの学年で学習した内容をまとめて発表します。他の学年に向けて発表することで、学習意欲を高めたり、お互いの努力を認め合うことで、自己肯定感を高めたりしていくことにつながると考えています。

